



子どもたちに教えられたこと

～「そもそも、それ自体よいとか、悪いとかいうものはない。考え方一つだ」～

小学部副校長 岸 俊介

小学部は11月2日(月)に従来の運動会に代わる「きりっこスポーツ2020」を行いました。午前中の開催。密を避けるため参観を保護者1名に限定。種目の工夫(徒競走と団体演技に精選)。今までにない取組ではありましたが、子どもたちはできることのなかで全力を尽くしていました。徒競走で力いっぱい走る姿や団体演技で真剣に踊る姿は、見る者の心を打つものでした。

中学部は10月29日(木)30日(金)に学習発表会「あすなろ」を行いました。密を避けるための会場設営や参観の制限。マスク着用や飛沫飛散防止を考慮してのパフォーマンス。例年とは違う制限がかかった中での取組でした。ここでも子どもたちはできることのなかで、全力を尽くしていました。生徒と教職員が一体となったエネルギー溢れるパフォーマンスや演劇。舞台と客席が、これまた一体となって醸し出す温かい雰囲気。会場にいる誰もが幸福な気持ちに包まれたことでしょう。

学習発表会「あすなろ」において8年生が上演した「ロミオとジュリエット」はシェイクスピアによる戯曲です。そのシェイクスピアによる別の戯曲「ハムレット」に、次のような台詞があります。

There is nothing either good or bad, but thinking makes it so.

そもそも、それ自体よいとか、悪いとかいうものはない。考え方一つだ。

「ハムレット」第二幕第二場

ハムレットは「デンマークは牢獄だ」と言い、それを否定されると、「君たちにはそうでなくても俺にとっては牢獄だ」と返して、この台詞を言う。(「心を支えるシェイクスピアの言葉」河合祥一郎 より)

目の前の現実是谁にとっても同じものです。また、現実は変えられないことがほとんどです。しかし、考え方は、自分のものなので、自分の心一つで変えられる。物事の「よい」「悪い」は自分で決められる。私は、この台詞から、心のもつ力の強さ、心の自由さを思いました。

臨時休業が終わり、学校が段階的に再開された6月以来、例年なら行うことができた多くの行事が中止、あるいはかたちを変えての開催を余儀なくされています。「きりっこスポーツ2020」で小学部が見せた姿、「あすなろ」で中学部が見せた姿は、「今」「ここ」に全力で向き合うものでした。子どもたちは私たち大人が思っている以上にたくましい。新型コロナウイルスで今まで通りできなくなったことを嘆くのではなく、「今」「ここ」でできることに、むしろ感謝すらしながら取り組む子どもたちに感動しました。

「そもそも、それ自体よいとか、悪いとかいうものはない。考え方一つだ。」どんな時でも、どんな現実にも直面しても、「よい」ものにしていくのは自分の心一つ。子どもたちに教えられました。